



「高知の授業づくり改革プランにおける『学力向上対策推進事業』授業づくり講座」今回は、旭中学校を会場とする第3回「教材研究会」における学びの様子を紹介します。まず、授業者の桐谷教諭より「本単元を指導するに当たって課題となっていること」また、「その課題を解決するための単元づくりについて」の提案があり、模擬授業を行いました。その後、参観者の先生方と協議を行いました。最後に、学力向上総括専門官齊藤一弥先生より、ご指導・ご助言をいただきました。

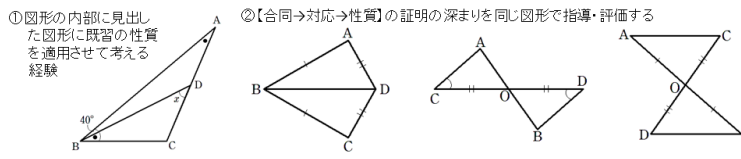
**【提案内容】第1学年「図形の性質と合同」【授業者】桐谷 巧 教諭（高知市立旭中学校）**



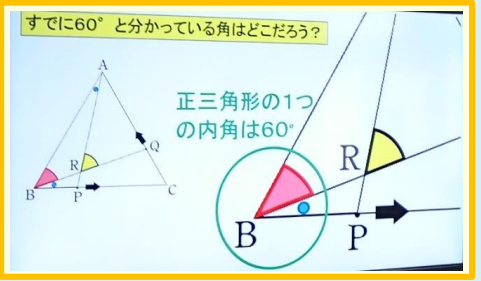
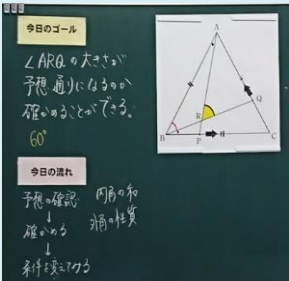
**単元の課題** 学びや経験が折り重なっておらず剥落しやすい力に止まっていること  
 直観的に捉えた図形の構造やその関係を式や言葉に表現し直すこと

“どこを変えればよいのか”

「単元の学習活動を整理し、本時の課題を解決できる道筋を前時までにしっかりと描いた指導実践」



模擬授業  
 協議

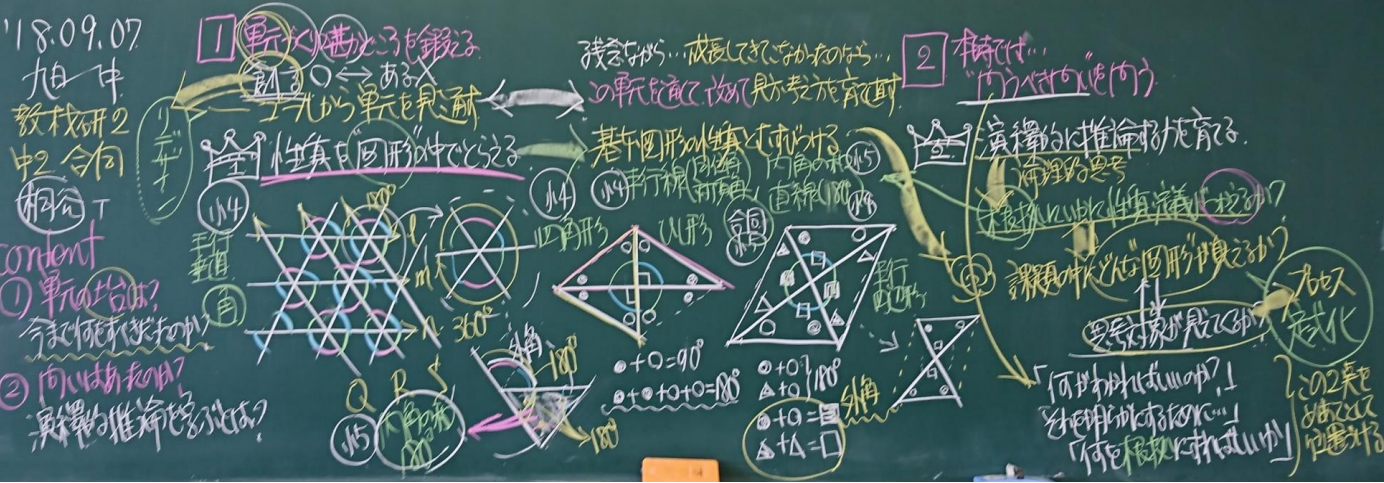


《協議の視点》

- 単元のどのようなところで見方・考え方を鍛え、育てていけば、本時のねらい(単元の終末)を達成できるか。

高知県教育委員会事務局 学力向上総括専門官 齊藤 一弥 先生の指導

～単元から学びを見つめなおす～



《参会者の感想》

- 単元を通して、教師がしっかり計画、実行し教科会で確認をしていくことが大切であり、それを確実に実践していきたい。
- 単元づくりについて大変参考になった。「問うべき問い」を研究していきたい。

★ 単元づくりの勘どころを鍛える

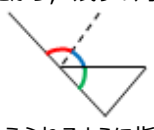
- 生徒の実態は学校ごとに違うため、実態にあわせて単元を作ること
- 単元づくりの勘どころを養って鍛えることが大事。

★ 本時では「問うべき問い」を問う

- 「何がわかればいいのか」「それを明らかにするために何を根拠にすればいいのか」この2点をめあてとして位置付ける。

★ 性質を“図形”の中でとらえる

平行な三つの直線に平行な三つの直線が交わっている(板書中央左)とき、中学2年で学習する「同位角」や「対頂角」に当たる角がそれぞれ等しいことや、一直線は180度であることから、残りの角も等しいことが分かる。この図の一部を拡大すると(右図参照)中学2年で学ぶ「外角」が見えてくる。すなわち、単元を通して基本図形の中で図形の性質をとらえられるように指導することが大事。



小学4年で「平行」「垂直」「角の大きさ」、小学5年で「図形の合同」「内角の和」を学ぶ。中学2年で学ぶ「外角」の素地経験は小学4、5年の学習の中にある。

★ 小学校からの学びをつなぎ、見方・考え方を鍛える

- ◎ 直線が交差していたら、外角が見えてくる子供に育てる
- ◎ 子供にクローズアップできるメガネをもたせ、思考対象が浮かび上がる子供を育てる

授業終盤は「統合」を図るために問題場面を変えて、得た知見を使う場面を設定する。